

2009年5月8日

ワークショップ No.27 参加者各位

日本学術振興会  
プロセスシステム工学第143委員会  
委員長 長谷部 伸治  
ワークショップ No.27 代表者  
京都大学大学院工学研究科  
准教授 加納 学

プロセスシステム工学第143委員会  
ワークショップ No.27・第12回研究会開催通知  
(<http://ws27.pse143.org/>)

1. 日 時：2009年5月18日（月）13：00～16：30 研究会
2. 場 所：東京工業大学 大岡山キャンパス 南5号館1階 S511  
(東京都目黒区大岡山 2-12-1)  
(交通案内 [http://www.titech.ac.jp/about/campus/o\\_map.html](http://www.titech.ac.jp/about/campus/o_map.html))
3. 内 容：  
報告1：高度制御アンケート調査結果概要報告  
京都大学 加納 学  
概要：143委員会会員企業を対象に実施した、モデル予測制御を中心とする高度制御技術に関するアンケート調査の結果概要を報告する。  
報告2：酢酸ビニル製造プロセスの制御系設計（仮題）  
東京工業大学 関 宏也 氏  
概要：プラントワイド制御Grで取り組んでいる酢酸ビニル（VAc）製造プロセスの制御について、最適化に関する進捗状況等を報告する。  
報告3：E-FRIT アルゴリズムの実装上の問題点と対策（仮題）  
山武 小河 守正 氏  
概要：現在配付されているE-FRITのMATLABプログラムでは、PSOによる最適化で安定した解が得られないという問題がある。実用性向上に向けた取り組み状況を報告する。  
報告4：モデルベース制御におけるモデル誤差の検出：偏相関法の検証  
京都大学 加納 学  
概要：偏相関分析を利用して、モデル予測制御システムのモデルミスマッチを検出する方法が提案されている。既報論文ではプラントデータへの適用結果をもとに、その有用性が示されているのみであり、その性能や信頼性について理論的な評価ができていない。本報告では、偏相関法によってモデル誤差を検出できる可能性があること、検出精度は設定値変更と外乱のバランスに依存することなど、これまでの検証結果を報告する。

討議：今後の検討内容について

[その他]

- ・ 準備の都合がありますので、5月13日（水）までにご出欠についてご連絡下さい。

[出欠連絡先]

京都大学大学院工学研究科化学工学専攻 加納 学  
E-mail: [manabu@cheme.kyoto-u.ac.jp](mailto:manabu@cheme.kyoto-u.ac.jp)